

60分でわかる新約聖書(3) 「ルカの福音書」

1. はじめに

(1) ルカの福音書の位置づけ

- ①ルカの福音書と使徒の働きで、新約聖書の28%を占めている。
- ②共観福音書のひとつではあるが、他の福音書にはない箇所が多く出て来る。
 - *20の奇跡物語が出て来るが、その内の6つはルカだけのもの。
 - *23のたとえ話が出て来るが、その内の18はルカだけのもの。
 - ・放蕩息子のたとえ
 - ・良きサマリヤ人のたとえ
 - *ヨハネとイエスの誕生物語が詳細に語られている。
 - *12歳のイエスの物語はルカだけのものである。
 - *9:51~19:27は、ルカ独特の箇所である。
- ③福音書は、単なるイエス・キリストの伝記ではない。
- ④4人の著者たちは、ある読者を想定し、その必要に答えるために執筆した。
- ⑤ルカは、理想的な人間イエスを描写している。
 - *ギリシア人(異邦人)読者を想定して執筆している。

(2) 著者

- ①ルカの福音書にも使徒の働きにも、ルカという名称は出て来ない。
- ②使徒の働きは、ルカの福音書の続編である。
- ③使徒の働きには、「we」セクションが出て来る。
 - *使16:10~17、20:5~21:18、27:1~28:16
 - *ルカがパウロに同行している箇所である。
- ④使徒の働きの著者はルカである。
 - *それゆえ、ルカの福音書の著者もルカである。
- ⑤ルカという名前は、新約聖書の中に3回出ている。

*コロ4:14

Col 4:14 愛する医者ルカ、それにデマスが、あなたがたによろしくとっています。

*2テモ4:11

2Ti 4:11 ルカだけは私とともにおります。マルコを伴って、いっしょに来てください。彼は私の務めのために役に立つからです。

*ピレ1:24

Phm 1:24 私の同労者たちであるマルコ、アリストアルコ、デマス、ルカからもよろしくとっています。

- ⑥ルカは異邦人であったとするのが通説である。

*根拠は、コロ4:14でルカが異邦人たちの中に置かれていること。

⑦ルカはユダヤ人であったとする節もある(フルクテンバウム師)。

*ユダヤ人の習慣を知悉している。

*エルサレムに対する愛が顕著である。

*ロマ3:1~2

Rom 3:1 では、ユダヤ人のすぐれたところは、いったい何ですか。割礼にどんな益があるのですか。

Rom 3:2 それは、あらゆる点から見て、大いにあります。第一に、彼らは神のいろいろなおことばをゆだねられています。

(3) 執筆年代

①使徒の働きは、パウロがローマの獄中にある時点で終わっている。

*これは、ネロによる迫害(紀元64年)以前のことである。

②紀元64年の前に使徒の働きが完成していたと見るべきである。

③ルカの福音書はそれよりも数年前、58年~60年頃に書かれたと思われる。

2. アウトライン: ルカの福音書の特徴

I. 2つの執筆目的

II. 異邦人読者

III. 福音の普遍性の強調

IV. 祈りの強調

V. パウロの影響

結論

ルカの福音書について学ぶ。

I. 2つの執筆目的

1. テオピロの信仰を励ますため

(1) ルカの福音書も使徒の働きも、テオピロに献上された。

①キリストに対する信仰は、歴史的事実の上に築かれている。

(2) ルカは歴史家である。

①ルカ1:3

Luk 1:3 私も、すべてのことを初めから綿密に調べておりますから、あなたのために、順序を立てて書いて差し上げるのがよいと思います。尊敬するテオピロ殿。

②目撃者たちから情報を得た。

③ヘロデの王宮とも接触があった。

*国主ヘロデの乳兄弟マナエン(使13:1)

- ④当時流布していた諸資料を吟味した。
- ⑤聖霊の導きによって、それらの出来事を時間順にまとめた。

2. イエスを「人の子」として示すため

- (1) ギリシア人たちは、理想的な人間像を求めていた。
 - ①ルカはイエスを、力強いが、憐れみに富んだ方として描いた。
- (2) ユダヤ人たちは、「人の子」を拒絶した。
 - ①その結果、異邦人に福音が伝えられるようになった。
 - ②異邦人もまた、神の国のプログラムを知り、救われるように招かれた。

II. 異邦人読者

1. メシアの系図が、ヨセフから始まり、アダムにまで遡っている。

- (1) マタ1:1

Mat 1:1 アブラハムの子孫、ダビデの子孫、イエス・キリストの系図。

- (2) ルカ3:38

Luk 3:38 エノスの子、セツの子、アダムの子、このアダムは神の子である。

2. ユダヤの地名に解説を入れている。

- (1) 「ガリラヤの町カペナウム」(4:31)
- (2) 「ガリラヤの向こう側のゲラサ人の地方」(8:26)
- (3) 「さてイエスは、昼は宮で教え、夜はいつも外に出てオリーブという山で過ごされた」(21:37)
- (4) 「アリマタヤというユダヤ人の町の人」(23:51)

3. ユダヤ的概念や用語を避けている。

- (1) ラビの代わりに、「didaskalos」(先生)というギリシア語を使用している。
- (2) メシア預言の成就にさほど触れていない。
 - ①メシア預言の成就という表現が5度出てくる。
 - ②その内の4回までは、イエスのイスラエルに対する教えの中で出て来る。

III. 福音の普遍性の強調

1. ユダヤ人社会の底辺にいる人たちへの愛

- (1) 罪人たち、取税人たち、村八分になった人たち
- (2) 婦人たち、子どもたち

(3) イエスは、人間が経験する痛みや悲しみをよく知っておられた。

2. 異邦人たちやサマリヤ人たちへの愛

(1) 異邦人たちも、メシアの祝福に与った。

(2) サマリヤ人たちは、メシアを信じる信仰へと導かれた。

IV. 祈りの強調

1. 重要な局面でのイエスの祈り

(1) ルカ 3 : 21

Luk 3:21 さて、民衆がみなバプテスマを受けていたころ、イエスもバプテスマをお受けになり、そして祈っておられると、天が開け、

(2) ルカ 5 : 16

Luk 5:16 しかし、イエスご自身は、よく荒野に退いて祈っておられた。

(3) ルカ 6 : 12

Luk 6:12 このころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈りながら夜を明かされた。

(4) ルカ 22 : 32

Luk 22:32 しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

(5) ルカ 22 : 40~41

Luk 22:40 いつもの場所に着いたとき、イエスは彼らに、「誘惑に陥らないように祈っていなさい」と言われた。

Luk 22:41 そしてご自身は、弟子たちから石を投げて届くほどの所に離れて、ひざまずいて、こう祈られた。

V. パウロの影響

1. ルカはパウロの伝道旅行に参加し、パウロの教えの影響を受けたはずである。

(1) 信仰

(2) 悔い改め

(3) 憐れみ

2. 赦しの強調

(1) ルカ 3 : 3

Luk 3:3 そこでヨハネは、ヨルダン川のほとりのすべての地方に行って、罪が赦されるための悔い改めに基づくバプテスマを説いた。

(2) ルカ 5 : 18~26

①屋根から降り降ろされた病人へのことば

② 「「友よ。あなたの罪は赦されました」

(3) ルカ 6 : 37

Luk 6:37 さばいてはいけません。そうすれば、自分もさばかれません。人を罪に定めてはいけません。そうすれば、自分も罪に定められません。赦しなさい。そうすれば、自分も赦されます。

(4) ルカ 7 : 36~50

① イエスの足に香油を注いだ罪の女

② 「だから、わたしは『この女の多くの罪は赦されている』と言います。それは彼女がよけい愛したからです。しかし少ししか赦されない者は、少ししか愛しません」

(5) ルカ 17 : 3~4

Luk 17:3 気をつけていなさい。もし兄弟が罪を犯したなら、彼を戒めなさい。そして悔い改めれば、赦しなさい。

Luk 17:4 かりに、あなたに対して一日に七度罪を犯しても、『悔い改めます』と言って七度あなたのところに来るなら、赦してやりなさい。」

(6) ルカ 23 : 34

Luk 23:34 そのとき、イエスはこう言われた。「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」彼らは、くじを引いて、イエスの着物を分けた。

(7) ルカ 24 : 47

Luk 24:47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。

結論

1. 1 コリ 15 : 45~47

1Co 15:45 聖書に「最初の人アダムは生きた者となった」と書いてありますが、最後のアダムは、生かす御霊となりました。

1Co 15:46 最初にあったのは血肉のものであり、御霊のものではありません。御霊のものはあとに来るのです。

1Co 15:47 第一の人は地から出て、土で造られた者ですが、第二の人は天から出た者です。

(1) イエスは、最後のアダムである。

① アダムとは、人類の代表である。

② 最初のアダムは血肉のものであり、墮落した。

③ 最後のアダムは、御霊のものであり、生かす御霊となった。

④ イエスの後に、人類の代表となるアダムは登場しない。

(2) イエスは、第2の人である。

①イエスに続く第3の人、第4の人、第1000の人が出て来る。

②ヘブ2:17

Heb 2:17 そういうわけで、神のことについて、あわれみ深い、忠実な大祭司となるため、主はすべての点で兄弟たちと同じようにならなければなりません。それは民の罪のために、なだめがなされるためなのです。

③救いの完成は、イエスのようになることである。

(3) イエスは、栄光の体に復活された。

①ルカ24:15~16

Luk 24:15 話し合ったり、論じ合ったりしているうちに、イエスご自身が近づいて、彼らとともに道を歩いておられた。

Luk 24:16 しかしふたりの目はさえぎられていて、イエスだとはわからなかった。

(4) ルカの福音書の要約

①神が人となられた。

②このお方は、完璧な人であった。

③このお方は、罪人の罪を贖うために死なれた。

④そして、栄光の体に復活された。

⑤ユダヤ人がイエスを拒否したので、福音は異邦人に伝えられるようになった。

⑥イエスは、栄光の体を持ちながら今も生きておられる。

⑦最後のアダムであるイエスにつながるなら、その人は、「理想の人」として完成される。